



セボネ

タガヤ ランティア ネットワーク

Setagaya Volunteer Network

特集

P.2-5 世田谷をビンゴ片手にボランティアツアー



せたがやキラリ人 P.6

赤堀 仁紀さん



せたがや
災害ボランティアセンターレポート P.7

能登半島地震被災地での
災害ボランティア活動を続けています



おたがいさまビュー P.8-P.11 ボランティア募集、講座・イベント・その他 お知らせ

世田谷をビンゴ片手に ボランティアアツアツ

寄稿／鈴木景子すずきけいこ

世田谷ボランティアビンゴツアーズ実行委員

（一般社団法人イヴの木代表理事・

「気軽に1時間だけボランティア体験！世田谷の非営利団体や福祉の活動を体験して地域とつながろう」、そんなキャッチフレーズで、突如、世田谷に現れた「世田谷ボランティアビンゴツアーズ（略してボラビン）」は、今年1月11日のキックオフから6月30日のフィナーレまで、半年間の期間限定イベントとしてスタートしました。



第1回ボラビンナイト。100人の本屋さんにて

ボラビンという言葉を始め聞いた方の第一声は、「ボランティアとビンゴが結びつかない」です。「1時間のボランティア体験」「団体活動を体験して地域と繋がろう」の部分はすぐに共感していただけますが、「ビンゴ」の単語で戸惑われるようです。

実際にはシンプルな仕組みで、①ボランティアで参加した団体の登録番号と、最初に渡されたビンゴカードを照らし合わせ、同じ数字があれば、ビンゴカードが1マス開く。

②団体の登録番号は前もって発表されているため、ビンゴカードの数字と同じ登録番号の団体に参加すれば、効率よく数字を開くことができる。

このようなもので、このイベントの意義は、日常であまり接する機会のない活動に、「1時間だけなら」と試すところに隠れています。目的はビンゴを揃えるのではなく、

団体の活動を知っていただくことにあるのです。なぜ、このような取り組みを実現しようとしたのか、そこには、実行委員たちそれぞれの、世田谷で活動していく上での想いがありました。

昨年7月某日。のちに、このイベントをけん引することになる世田谷区副区長の松村克彦まつむらかつひこさんは、当時、これからの中間支援の在り方について、その方向性を考えているところでした。同じ時期、区内の活動団体を有機的に繋げるための仕組み作りを模索していた筆者と、非営利組織が苦手とする広報を、伴走支援したいと希望していた工藤賀子こうとうがこさん（one pass promotion代表）は、その想いを伝えるため松村さんを訪ねると、そこから中間支援全般についてのブレストが始まりました。

さらに、NPO法人障害者支援情報センター代表・進藤義夫しんどうよしとむさん、つくる！クロスワード主宰・いわ

みんなが加わり、議論を深めていきました。進藤さんもまた、障害者福祉事業をもっと区内全域に知らせたいと考えていたのです。

同年10月、何度目かの作戦会議のあと、場所を移して、カリーの美味しい地下店舗で、「福祉の様々な拠点施設を回っていく仕組みはないだろうか」と話す中、突如、「ビンゴだ」と、発想が降りてきました。「ビンゴ」が達成するまで、何か所も施設を回って頂く」「名前はボラ



第2回ボラピンナイト。
コミュニティカフェ・ななつのこにて、懇談会の様子。

ンティアビンゴツアーズでどうだろう」「略してボラピン！」こうしてボラピンは誕生しました。

ボランティアとビンゴを融合させたボラピンは、1丁関係に精通している *Angie* 代表・二河等さんと、すでに団体活動で実績のある坂田麗子さんを新たに実行委員として迎え、準備を開始しました。毎週のオンライン会議で方向性を固め、Facebookページとホームページを作成、12月から告知し始めました。

登録団体のリストや募集する活動はホームページに写真付でリスト化し、ボランティア参加者にもわかりやすく情報提供しました。また、ボランティア参加者は、ボランティア保険に加入することを条件に登録していただく、という仕組みも構築。さらに、世田谷ボランティア協会さんや世田谷区社会福祉協議会さんのご協力も頂きながら、1月にいよいよキックオフとなりました。

キックオフイベントは、「世田谷区立保健医療福祉総合プラザ（う

めとぴあ）」を会場として開催。登録団体の代表や、ボランティア参加希望者など総勢16名が参加し、盛大な幕開けとなりました。翌週にはさっそく記念すべき第1号の参加者が登場！ 数日後には第2号、第3号と続きましたが、そこから伸び悩みます。思うように参加者が増えず、横ばいの低空飛行状態となり、話し合った結果、「もっと盛り上がるには、お互いを知り合う必要があるのでは？」との見解に達し、2月27日に「ボラピンナイト」を開催しました。

キックオフから1か月過ぎた中間報告と、参加者・登録団体の親睦を兼ねたこの会は、「1000人の本屋さん」を会場に、25名もの参加となり、自己紹介から情報交換、参加者・団体の横連携へと繋がりました。また、そこで思いもよらぬエース・赤堀仁紀さんの存在が明らかになります。ボランティア参加者の赤堀さんは、時間さえあれば、一日に数か所を回り、文字通り、ビンゴカード片手に、一人でボランティア団体をツアーして

いたのです。

赤堀さんの活躍に加え、前後して読売新聞にボラビンの記事が掲載されたことから、じわじわと参加者が増え始めてきました。新聞記事を読んでボラビンナイトに参加した藤田果林^{つじなかりん}さんも、そのあと実行委員として加わり、ボラビンはここから徐々に高度を上げて突き進んでいきます。

ボラビンナイトが転機となり、参加者や登録団体に、このイベントの意義が浸透し始めたタイミン



ボラビン祭り。ふっくら布ぞうりの会さんの捨て耳アップサイクルに参加。

グで、「第2回ボラビンナイト」を烏山の「コミュニティカフェ・なつこのこ」にて開催。ボラビンの噂を聞き付けた近隣の方も参加されるという嬉しいサプライズの中、機運はますます上昇していくのですが、ここで思いもよらぬ事態が発覚します。

ボラティアが多く参加する活動と、あまり集まらない活動に分かれる、という現象です。ボラティア内容や所在地に差があるわけでもなく、登録団体にも差があったわけではありません。では、どのような理由で、参加者数に差が生じてしまうのか？ 実は活動日の告知方法に理由があったのです。

提供側は、「月曜日から金曜日の13時〜15時で開催しています。いつでもお越しください」と記載すれば参加しやすいのではないかと感じていたのですが、参加者側は「具体的に何をするのか、どんな時間配分なのか？」と戸惑い、結果として、「〇月〇日〇時〜1時間、子ども食堂の配膳をお手伝いしてください」と、活動日・時間・

内容を具体的に提示している団体が選ばれやすい傾向になっていたのです。そこで、「随時募集」としていた団体の活動も、あえて日時を設定して募集しなおしたところ、この問題は解消していきました。こうした試行錯誤もまた、大事なプロセスなのかもしれません。

さて、イベントを盛り上げる重要なアイテムとして、チラシは欠かせない存在です。キックオフだけでなくボラビンナイトでも、毎回チラシを刷っては、実行委員が参加や主催する個々のイベントで配布していきました。とくに、裏面のクロスワードは、スケルトンタイプのもので、小学生でも楽しむことができ、このボラビンを陰から支えてくれます。

チラシはともすれば放置されがちですが、そこにパズルやクイズといった、正解が気になる遊び要素が加わることで、長く手元に置いてもらえるという利点があるのです。ビンゴが実践の遊び要素なら、クロスワードパズルは、小さな広報支援といえます。



フィナーレにて。区長（右から3人目）と一緒にワークショップ。

こうして半年間にわたって開催してきたボラビン。後半に向けて、たくさんの方々ボランティア参加してくださいました。ラストスパートで開催した「ボラビン祭り」（複数個所のボランティアを回るツアー）では、これまでなかなか数字が開かなかった参加者が、ここで巻き返しをはかるボーナスメニューとなりました。参加者のみなさんは、独走状態であった赤堀さんに追いつけ、追い越せのデッドヒート！ ドキドキワクワクする展開が繰り広げられました。6月30日のフィナーレでは、大賞は

NPO法人訪問理美容かみのけきれいの会代表・久保朗さん、第2位は生涯現役ネットワーク代表・河上勇さん、そしてやはりボラビン咲いた（最多）賞は赤堀さんが、それぞれ受賞されました。なお入賞賞品には、世田谷ライオンズクラブさんからの多大なるご協力をいただけたことも、ボラビンが盛り上がる大きな要因であったことは間違いありません。

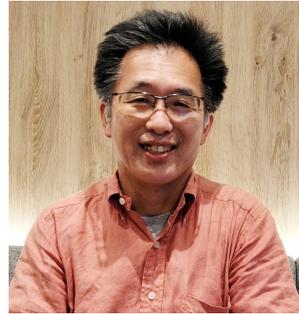
こうしてSeason1は、序盤こそスロースタートでしたが、一人ひとりが「ボラビン」に親しみ、互いを讃えながら楽しんで参加してくださったことにより、後半に向かって大きな盛り上がりを見せる中、幕を閉じました。しかし、これはほんの序章にすぎません。9月1日から、いよいよSeason2の幕開けです。今回もSeason1同様、「つめとぴあ」でのキックオフからスタート。ボラビンはまだまだ終わらない、長距離飛行で世田谷の人と人、人と地域、地域と地域を繋いでいきます。これから、ご期待くださいー！

世田谷ボランティアビンゴツアーズに、登録団体およびボランティア参加を希望される方は、以下の公式サイトからお申込みください。また、Facebookページでも最新情報を掲載しておりますので、こちらも要チェック！

【世田谷ボランティアビンゴツアーズ公式サイト】



フィナーレ集合写真。受賞者は写真前列中央・赤堀さん、左隣・久保さん、右隣・河上さん



地域での居場所づくりが原点

赤堀 仁紀さん
あかほり よしのり

赤堀仁紀さんは、普段は会社勤めの傍ら、土日は様々なボランティア活動に関わっています。どうしてそのように積極的にボランティアに参加するようになったのでしょうか。

2005年頃に世田谷に引っ越し、ボランティアとは縁のない暮らしをしていた赤堀さん。最初の出会いは2010年頃、おもちゃの診療所ぐるんぱの活動でした。きっかけは、奥さんの「リサイクル千歳台で開催されている包丁研ぎ（包丁研ぎもぐるんぱの活動の一つ）に行ってきたほしい」という一言。メーカー勤務ということもあり、機械の修理には関心があったことから、ぐるんぱの活動

に興味を持ち参加されたそうです。

そこでももちゃ修理のボランティアを月2回続けながら、2017年頃には奥さんの入院をきっかけに院内ボランティアにも興味を持つようになり、成育医療研究センターでのボランティアにも月2回ほど参加してきました。

コロナ禍で活動はなくなったものの、献血を続け、今もぐるんぱでの活動を続けながら、最近では世田谷ボランティアビンゴツアーにも積極的に参加されています。ここではなんと37団体の活動に参加、参加回数はダンツで1位だったそうです。

このように、ボランティアを通して地域の中に多くの知り合いの輪を広げてきた赤堀さん。

積極的に活動に参加するようになった理由は、自宅と会社の往復以外で生活の選択肢を増やしたい、定年後の地域の中での居場所が多かったから、と言います。

のコミュニケーションの仕方を学んだり、活動に関わる人のアンテナの広さや知識・経験に触れたりするなど、会社にいると知らないことがまだまだ多いと感じるそうです。

ボランティアを続けるコツは、「自分が楽しいと思える活動を、自分のできる範囲で」。赤堀さんはそのように話します。もっと地域に関わる人を増やすには、活動する側も、例えば、ボランティアのように1時間だけのボランティアといった、参加のハードルを下げる、最初の一步を無理なく踏み出せる工夫が必要と感じました。



おでかけひろばに出張しての
おもちゃ修理中の様子

せたがや災害ボランティアセンターレポート

能登半島地震被災地での
災害ボランティア活動を続けています

せたがや災害ボランティアセンターは石川県穴水町での活動を続けています。穴水町災害ボランティアセンター（V.C）運営を世田谷のコーディネーターが担って



被災家屋から家財の運び出しをしている様子

いることを前号で紹介しました。今回は、これまで7回派遣した災害ボランティアの活動を第4便・第5便の報告から抜粋して紹介します。

* * *

出発に先立ち活動中の体調管理や被災地での注意事項を確認し、夜、世田谷を出発。翌朝現地に到着し、穴水町災害V.Cへ。世田谷が定期的に活動していることから、大変温かい歓迎の言葉をいただいで、まず怪我防止のため柔軟体操を行ってから活動に入ります。

第4便・第5便では、被災家屋の公費解体も始まったことから解体家屋からの家財の運び出しが主な活動になりました。運び出しに立ち会っていただくため金沢市などの自主避難先から一時的に戻った依頼者から運び出す際の注意事項の説明を受け、作業に入ります。屋根の損傷のため雨漏りで床が抜けるような箇所もあり、細心の注意が必要です。建物の応急危険

度判定で立入禁止になった家屋でも、建築士の方の再調査により危険の程度を再確認し注意することです。安全に活動できました。

二階にある家財などは、毛布で包んだりロープを活用したりして、階段から慎重に降ろします。災害ごみ集積場の分別方法に合わせ、最初に家電製品、次いで燃えるごみ、燃えないごみに分別しながらトラックに積み込みました。

このほかにも、土壁が崩れたため埋まってしまった側溝の清掃、土の運びなど活動は多岐にわたります。既に高温多湿の時期になり、熱中症対策も重要です。30分作業、10分間休憩のサイクルで安全と効率を両立させて、災害V.Cに活動終了を報告。災害V.Cでは世田谷からコーディネーターとして派遣されているメンバーに出席えられ、心強く感じながら活動を終え、世田谷への帰途につきます。現地への要請に応え、世田谷から穴水町への支援は当面、9月末まで延長する予定です。

一緒に外出をしてくれる方を探しています

等々力にお住まいの60代の男性が眼の病気で片目を失明し、とても落ち込んで気力がなくなっています。家にももっていて筋力も落ちていくばかり。その上、人が大勢集まるところやグループ活動が少し苦手なため、なかなか自分だけで出かけることが難しい状況です。ご夫婦で悩まれていましたが、一緒に外出してくれる方が見つかり、お願いしたところ楽しく外出できるようになってきたそうです。しかしその後、その方の都合が悪くなったため、代わりに一緒に外出して話を聞いてくださる方を探しています。男性は筋力をつけるために歩いて移動することも多いそうで、ある程度体力がある50代までの方だとありがたいです。性別は不問。男性は、草花が大好きで、食べることも大好きな方です。詳しくはお問い合わせください。

- 日時／土曜日以外で1時間程度（月2回から）
- 場所／自宅または東急大井町線等々力駅近辺で待ち合わせ。その後目的地まで往復。
- 条件／交通費・諸費用：支給
- 問合せ／玉川ボランティアビューロー TEL：03-3707-3528
メール：tamabora@otagaisama.or.jp

幼稚園のお迎えをしてくださる方を募集

お母さんが出産のため、4歳児（男の子）が幼稚園バスを降りたところから自宅までのお迎えをお手伝いしてくださる方を募集しています（曜日によっては、直接幼稚園へ）。詳細は烏山ボランティアビューローまでご連絡ください。週1回でも可。特に木曜日のお迎えを希望します。

- 日時&内容&場所／
- 【月曜】15時10分に直接幼稚園（京王線つつじヶ丘駅徒歩6分）へ迎えに行き、電車で自宅へ帰宅（粕谷2丁目）。
- 【木曜】14時45分ごろ仙川駅付近（徒歩3分）で、幼稚園バスを降車した4歳児を迎え、電車またはタクシーで自宅へ帰宅。10月ごろまでお願いしたいです。
- 条件／女性を希望（大学生から60歳代の方）、交通費負担
- 問合せ／烏山ボランティアビューロー TEL：03-6909-0333
メール：karasubora@otagaisama.or.jp

車いす利用者の付き添いにご協力いただける方を募集（北沢地域）

世田谷2丁目の70代男性が、出かける際に付き添ってくださる方を探しています。男性は読書や音楽鑑賞、人と会話することが好きな方です。日時は、主に【火曜】【水曜】【金曜】のいずれも午後で可能な日をお願いしたいです（日曜日にも応相談）。雨天時は中止しますが、小雨であれば出掛けます。男性とお話を楽しみながらお出掛けに付き添っていただける方、お待ちしております（性別不問）。ご本人との顔合わせ・初回とお試しの際はスタッフ同行予定です。詳しくは北沢ボランティアビューローまでお問い合わせください。

- 日時／内容／
- 【火曜】13時30分～16時30分（月1回程度）、自宅～通院先の病院～買い物など～自宅へ
- 【水曜】13時30分～15時30分（2週間に1回）、自宅～スーパーや図書館～自宅へ
- 場所／世田谷・上町近辺 ●交通／東急世田谷線上町駅徒歩7分程度（ご自宅まで）
- 条件／【火曜】の病院から帰宅の際は、区の緊急介護人に登録いただきます。※手当あり（相談に応じます）
- 問合せ／北沢ボランティアビューロー TEL：03-3420-2520
メール：kitabora@otagaisama.or.jp

自宅から学校の登校に付き添ってくれるボランティア募集

世田谷区内在住の知的障害のある女の子が、自宅最寄り駅（田園都市線の駅）から後楽園駅近くの学校までの登校に付き添ってくださる方を必要としています。現在、複数のボランティアさんご家族で交代で付き添っていますが、あと何名か手伝ってくださる方がいると助かります。女の子は、高校3年生でおとなしい性格です。電車での移動には慣れており、乗り換える駅や路線などは理解しているので、基本的に彼女が移動するのを側で見守っててください。週1回から可。詳しくはお問い合わせください。

- 日時／月・火・木曜で自宅最寄り駅7時50分ごろ待ち合わせ、8時40分ごろ学校着。
- 場所／自宅最寄り駅と後楽園近くの学校との間
- 条件／女性、交通費支給
- 問合せ／玉川ボランティアビューロー TEL：03-3707-3528
メール：tamabora@otagaisama.or.jp

家事をサポートしてくれる女性を募集します！

東玉川にお住まいの目の不自由な80代の女性が、自宅の掃除など家事をサポートしてくれる方を探しています。今は目が全く見えなくなってしまい、困っています。ネットショッピングも代わりをお願いしたいです。月2、3回程度、午後の時間帯が希望ですが、まずはお問い合わせください。女性の方のご応募お待ちしております。

- 日時／平日13時～15時（応相談）
- 場所／東玉川の自宅 ●交通／東急東横線・目黒線田園調布駅徒歩15分ほど
- 条件／女性の方限定、報酬：1,000円/1時間（交通費込み）※区の緊急介護人に登録いただきます
- 問合せ／玉川ボランティアビューロー TEL：03-3707-3528
メール：tamabora@otagaisama.or.jp

車いす利用の男性の付き添いボランティア募集（玉川地域）

車いすを利用されている70代男性（上用賀在住）が、近所の理髪店へのお出かけを楽しみにしています。月1回（主に木曜日午前中）自宅と理髪店の往復で、車いすを押して同行いただける方を募集しています。所要時間は往復込みで1時間ほどです。詳細は玉川ボランティアビューローにお問い合わせください。

- 日時／月1回（主に木曜日午前中）
- 場所／上用賀
- 条件／報酬：1,000円/1時間（交通費込み）※区の緊急介護人に登録いただきます
- 問合せ／玉川ボランティアビューロー TEL：03-3707-3528
メール：tamabora@otagaisama.or.jp

中学1年生男子と一緒に散歩して下さる方募集

知的障害がある中学1年生の男の子が、休日に一緒にお散歩や買い物をして下さる方を探しています。人見知りもなく、明るい男の子です。月に1回からでもお手伝いいただけると助かります。詳しくはお問い合わせください。

- 日時／日曜、祝日の午前中（2時間程度、応相談）
- 場所／玉堤周辺
- 条件／報酬：1,000円/1時間 ※区の緊急介護人に登録いただきます
- 問合せ／玉川ボランティアビューロー TEL：03-3707-3528
メール：tamabora@otagaisama.or.jp

上記掲載記事は8月17日時点の情報です。
変更となる場合がありますので、詳細は問合せ先へご確認ください。

災害ボランティアコーディネーター養成講座（基礎編）@国土舘大学

2024年度2回目となる「災害ボランティアコーディネーター養成講座 基礎編」を国土舘大学にて開催します！内容は講義・模擬訓練、世田谷区の災害対策、災害ボランティアの活動内容（世田谷方式）等を学びます。

- 日時／9月14日（土）13時30分～16時30分 ※13時より受付開始
- 会場／国土舘大学世田谷キャンパス34号館（世田谷区梅丘2-8-17）
- 交通／小田急線梅ヶ丘駅徒歩9分 ●参加費／無料
- 申込／9月12日（木）正午までに、右記二次元コードから、または問合せ先にご連絡ください。
- 問合せ／せたがや災害ボランティアセンター
TEL：03-5712-5101



災害ボランティアコーディネーター養成講座（基礎編）@日本大学商学部

2024年度3回目となる「災害ボランティアコーディネーター養成講座 基礎編」を日本大学商学部にて開催します！内容は講義・模擬訓練、世田谷区の災害対策、災害ボランティアの活動内容（世田谷方式）等を学びます。

- 日時／10月5日（土）13時30分～16時30分 ※13時より受付開始
- 会場／日本大学商学部（世田谷区砧5-2-1）
- 交通／小田急線祖師ヶ谷大蔵駅徒歩12分 ●参加費／無料
- 申込／10月3日（木）正午までに、右記二次元コードから、または問合せ先にご連絡ください。
- 問合せ／せたがや災害ボランティアセンター
TEL：03-5712-5101



傾聴ボランティア養成講座@砧ボランティアビューロー準備室 参加者募集！

お話し相手を必要としている方を訪ね、継続的にお話しを聴く“傾聴ボランティア”を養成するための講座です。ワークやロールプレイなどの体験学習を中心に、話すこと・聴くことをグループで考え、自身の気持ちを感じながら学んでいきます。

- 日時／9月25日、10月2日、10月16日、10月23日、10月30日の全5回（全て水曜日13時30分～16時30分）
- 会場／成城6丁目事務所棟1階成城まちづくりセンター活動フロアー（世田谷区成城6-3-10）
- 交通／小田急線成城学園前駅北口下車3分
- 参加費／8,000円（全5回分を初回時にお支払いください。支払い後の返金はいたしません。）
- 条件／講座修了後にボランティア活動ができる方。
- 申込／9月2日（月）午前11時から電話で受け付けます。
- 問合せ／砧ボランティアビューロー準備室 TEL：03-6411-4007
e-mail：kinutabora@otagaisama.or.jp

もっと語ろう不登校 part.292

これまで29年にわたって、さまざまな方々の分かち合いの場となってきました。「自分だけではなかったんだ」と知るだけで心が軽くなります。初めての方も、お問い合わせの上、どうぞお気軽にご参加ください。

●日時／9月7日(土) 14時～

●場所／人の泉・オープンスペース”Be!”(世田谷区赤堤1-15-13)、またはZOOM会議

●交通／小田急線豪徳寺駅徒歩8分、世田谷線山下駅徒歩6分

●条件／事前申し込み制

●問合せ／世田谷こどもいのちのネットワーク第3分科会「もっと語ろう不登校」担当 佐藤
TEL：090-9248-1355 メール：yurinoki11513@gmail.com

市民活動・NPO相談

世田谷区内で活動を始めた方や、すでに活動している方を対象に団体、個人を問わず、グループ・団体、法人の立ち上げや運営に関する基礎的な相談・情報提供を行っています。相談をご希望の方はお問合せください。また会計、税務、契約、社会保険、雇用、法律の専門相談も行っています。(原則として事前予約制です)

●問合せ／最寄りのセンター、および各ビューローにご連絡ください。電話番号は裏表紙参照、専門相談はセンターにお問い合わせください。

個別のサポートを必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、ボランティアの力を必要としている方と、ボランティアをつなぐ橋渡しをしています。困りごとを抱えていたり、どこに連絡したら問題を解決できるのかわからないという方は、ぜひご相談ください。電話でお話ししながら、どんなことができそうか、どんな解決方法がありそうか、一緒に考えます。

●問合せ／世田谷ボランティアセンター TEL：03-5712-5101
メール：v-soudan@otagaisama.or.jp

個別の学習支援を必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、「発達障害や学習障害の傾向があったり、不登校の経験があり、学習の理解の面で苦労をしている」「勉強に向き合うことが苦手。学校の授業についていけない」などの相談を受け、小学生～高校生の個別の学習支援に取り組むボランティアを探して紹介しています。現在は、オンラインでの学習支援にも対応しています。勉強への気持ちや、学ぶポイントなど、本人のペースや特徴を尊重していきます。お気軽にご相談ください。

●問合せ／世田谷ボランティアセンター TEL：03-5712-5101
メール：v-soudan@otagaisama.or.jp

AIシステムによるマッチングサイトのお知らせ

「趣味や技術、経験を生かしたい」「地域で活動したい」という、ボランティア活動をしたい方の経験や意欲などと、サポートを求める方や団体などを、東京大学先端科学技術研究センターが開発したAIシステムによるマッチングサイト(世田谷版GBER「ジーバー」)で結び付け、ボランティア活動を支援します。

詳細は右記二次元コードからご覧ください。



上記掲載記事は8月17日時点の情報です。
変更となる場合がありますので、詳細は問合せ先へご確認ください。

世田谷ボランティア協会の活動・支援拠点



相談・お問い合わせ先

- ボランティアについて ▶ 【世田谷ボランティアセンター、各ボランティアビューロー】
- 災害ボランティアについて ▶ 【せたがや災害ボランティアセンター】
- リハビリについて ▶ 【ケアセンターふらっと、ケアセンター with】
- 訪問介護について ▶ 【ケアステーション連】
- 介護プランについて ▶ 【ケア相談センター結】
- 障害について ▶ 【ぼーとせたがやスペース ココカラ。】

ご意見・ご感想等お寄せください

皆さまのご意見・ご感想などをお待ちしております。「こうしたボランティア情報が読みたい！」などもございましたら、お気軽にお寄せください。今後の参考にさせていただきます。



協会ホームページ、
Facebook、Instagramは
こちらの二次元コードから
ご確認ください！



ホームページ



Facebook



Instagram

本誌掲載記事の無断転載を禁じます。